

3月議会 総括質問（加藤鉦一議員） 賃上げと雇用、市民のくらし守れ 「行財政改革」で地域の貧困化に

鶴岡市議会3月定例会は2月27日開会し、平成25年度予算、24年度補正予算、条例改正などが提案され、市長説明がおこなわれました。

日本共産党市議団を代表し、加藤鉦一議員が総括質問をおこない、「雇用と市民生活の安定」「市の行財政改革」「国税の増税」「学校における体罰」といじめ対策」を取り上げました。

賃上げと雇用の安定図れ

加藤鉦一議員は、地域経済活性化について、「デフレ経済脱却に向け、国会内外で働く人の賃上げと雇用の安定の機運が高まってきた。しかし、地元では大手企業のさらなるリストラ策が昨年末に発表され、給与の7%カット

から10%カット、ボーナスカットなど深刻な影響を与えている」と述べて、市が新年度、独自におこなう雇用創出事業について取り上げました。

この事業は、国の雇用創出事業の終了を受けて継続事業に限定し

ておこなわれるもので、「市としての雇用創出賃上げと雇用の安定をどう図るか」とただしました。

さらに市役所の臨時職員については、雇用の安定と待遇の改善は自前のできる課題だと

「行革」で地域の貧困化

次に、「行財政改革」について取り上げ、「市民サービスの削減と住民負担の増大、基準財政需要額の減少など、地域の貧困スパイラルを生み出していないか」と質しました。

「旧町村の地区公民館のコミセン化と指定管理は、社会教育と公民館活動に対する行政責任の後退となる」と指摘し、「旧鶴岡市ではコミセンを運営している自治会費の値上げなどがある。将来は旧町村でも住民負担の導入があるのか」と質しました。

学校給食の調理部門の民営化では、「営利企業が参入し商業主義が導入され、公教育としての評価を下げる」「栄養士が現場責任者に作

して、学校図書司書や公民館主事など「5年を期限とした雇い止めは改めるべきではないか」と求めました。

次にバイオ研究支援について、「バイオベンチャー企業の工場新設では、投資効果に見合った地元への波及効果を質しました。

中小企業金融円滑化法の期限切れ、農業に再び差別・選別を持ち込む「経営安定対策」、生活保護の基準切り下げを始めとした社会保障削減、日米首脳会談で安倍総理のTPP交渉参加発言などに対する市長の見解を質しました。

業指示書を示すだけでは良い給食はつくれない。栄養士と調理師とのコミュニケーションを緊密にしなければなら

国保の減税で負担の公平を

国保は「高齢化」「高医療費」「低所得化」という構造問題を抱えています。

加藤鉦一議員は、国保引き上げ案に対して、「同じ医療を受けても、保険料負担率が健保組合の倍で、所得の

らない」と質しました。保育の民営化や公立幼稚園の廃止の問題では、公的責任の後退を指摘し、「民営化では市直営よりも民間の力を活用してレベルアップするし、不安定な臨時職員から民間の正規雇用となり安定雇用が図られると説明してきたが、現状は非正規雇用が多数であり、不安定雇用と低賃金による貧困スパイラルとなっていないか」と質しました。

学校適正配置による統廃合の問題では、「県費による教職員が鶴岡市から大きく減少し、基準財政需要額も減少する。これは明らかに大きなデメリットではないか」と述べ、「学校大規模化が進むことによる教師と子ども関係の希薄化、地域と学校の希薄化が心配されないか」と質しました。

1割を超える国保税は明らかに社会的不公平であり異常だ。減税によつて負担の公平に近づけることこそ必要だと述べ、「一般会計の法定外繰入れ」による市民の負担引き下げを求めました。

体罰・いじめから子どもを守る

学校やスポーツにおける「体罰」問題では、「体罰は子ども人間としての誇りや尊厳を傷つけ人権を踏みしめる暴力そのものである」と

と指摘し、「学校内外で体罰が存在している事実を直視し、体罰・いじめから子どもへの命と心を守り抜く対策」を求めました。

大岩戸関 新入幕おめでとう



鶴岡市藤の花2丁目出身の大岩戸関（八角部屋）が10日初日の大相撲春場所で新入幕を果たします。（写真は2011年2月の後援会総会／藤島公民館）

被災地に母ちゃんの味 庄内産直センター、炊き出し25回

「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

2月18日付しんぶん赤旗。大山にある庄内産直センターの被災地支援活動の記事である。私が産直センターに伺ったとき記者が取材していた。16日の石巻市で25回になった。炊き出しは、「いも煮」「豚汁」「麦きり」などで、300食から1000食を作る。「事前準備が決め手」と菅原司専務は強調する。前日に食材を刻み袋詰め

し、お湯をタンクに入れてワゴン車で運ぶのだと。学校給食調理の経験のある井上みささんは「おいしい料理は、食材とお湯、調味料の量」がポイントという。母さんたちは「自分がこんなになつたらと思うと、少しでも力になるろう」としているとのことである。

藤島からも、太田榮市・小野寺裕・加藤敏一・佐藤一晴・鈴木重



雄・鈴木隆・高橋徳雄・成沢功・原田藤四郎・早坂清輔氏らが同行し、「民報藤島」で報告してきた。

東電・政府の対応に「あきらめ半分です」という悲しい賀状を南相馬市の被災者から頂き落ち込んだ。もう3・11は2周年を向かえる。忘れ去らずに何らかの支援言動を続けたと思う。



早く値上げしないと

2月8日、衆議院予算委員会で日本共産党の笠井議員は、大企業の内留保の1%程度を使うだけで8割の企業、7割の従業員に月1万円以上の賃上げができる事をパネルで示し、働く者の所得を増やすことが必要と強調したのに対し、安倍首

蔵王温泉（山形市） 大沼 浩

山形・宮城県境の蔵王山は蔵王権現を祭る山とされます。蔵王権現は「天竺の神」と大言海にあります。御釜（宮城県）や樹氷で有名です。中腹に蔵王温泉があります。

温泉は高湯の改称で、白布高湯（米沢）、高湯温泉（福島）と奥州三高湯の一つでした。「西暦110年日本武尊の臣、吉備多賀由ガ発見」と伝えられているそうです。多賀由説は前からありました。「たがゆ」（多賀由）が「たかゆ」（高湯）と通ずるのでしよう。110年説は



が、まずは効果あり。

▼順調なスベリ出しというところにローンという会社は、日本共産党と同じ考え方で、「タメているだけではダメだ。働く者の給料を上げなくては」と。家族手当も上げるとも言っている。しかもこれがデフレ脱却になるんだと。どうです、立派な考え方でしょう。

▼ローンで働く労働者が手にする給料に1万円札が多くなる日が近いだろうが、財界3団体がかかえる労働者の給料はいつから上がるのだろうか。

▼自民党を支持し政治献金で政権党を支えている彼等が、早く賃上げしないと安倍首相のデフレ脱却の足を引っ張ることになるんだがネー。わかっているだろうな、財界の親分達よ。（石川）

玉ねぎの芯だけ残る消費税

工藤 博司



（画・加藤貞雄）

「玉葱」の原産はペルシャで、明治のはじめ頃に日本に渡って来たと歳時記に出ている。俳句では夏の季語になっていくが、夏の収穫が一番多いからだろうか。うす茶色の皮を一枚剥くと、まぶしいほどの白い肌があらわれる。なかには、赤や紫がかつた品種もあって食欲をそそる。生で食べてもおいしいが、焙めものや、天ぷら、味噌汁の具にも良く、冷蔵庫に入れなくても貯蔵が効くのでありがたい。

玉ねぎ本体をだんだん剥いていくと最後は芯になるのだが、時間が経つとそれが育ち緑色の芽になる。来年、さ来年と消費税の大幅アップがもくろまれていくが、庶民のくらしは、ついに玉ねぎの芯だけになりかねない。参院選も間近、庶民増税ノーの声を大きくあげていきたいものである。